

令和7年度 浦西中学校 各教科シラバス

学 年	1 年	教科名	社会科
教科担当			
教科書名	中学生の地理（帝国書院）・中学生の歴史（帝国書院）		
副 教 材	地理の学習1・歴史の学習1		

「シラバス」とは、各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法などを記した総合的な学習計画のことです。浦西中学校の「シラバス」は、生徒の皆さんが1年間、何を学び、どのように学習を進めていくかを示すことで、見通しを持って、計画的・主体的に授業に取り組めることをねらいとして作成しています。

また、各教科の評価の観点が3観点としてシラバスに示してあります。

I「知識・技能」…各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

II「思考・判断・表現」…各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

III「主体的に学習に取り組む態度」…知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」が実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

1 (社会) 科の目標と評価について

教科の目標	〔地理的分野〕 (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。 (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。 (3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。 (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。 〔歴史的分野〕 (1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。 (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。 (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。 (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

評価の観点	1 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。 2 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 3 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	1 授業中の態度や参加の様子（挙手・発言・話し合い・聞く態度） 2 ノート・ワーク・レポートなどの提出物の内容と提出状況 3 単元テスト・小テスト・作文・課題発表など

2 （社会）科の学習について

授業の進め方	(1)授業は、プリントやノート、ロイロノートで様々な課題を提示します。期限を守って提出できるようにしましょう。 (2)単なる暗記ではなく、地図や統計資料、写真等から何が読み取れるかを考えよう。 (3)ICT機器を活用し、視覚的にわかるように授業を展開します。 (4)テレビや新聞、SNS等の社会で起きた問題（ニュース）を通して、時事問題への関心を高め社会的事象に対する見方や捉え方を育てます。 (5)探求型の学習をできるだけ取り入れ、お互いの意見や考えを交流させ、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。
単元小テスト	○教科書ならびに副教材を使用して学習した授業の内容および時事問題などを中心に出题します。 ○テストに際しては、教科書の説明で使用したプリントやデジタルコンテンツからも出题します。 ○統計資料や地図、写真などを用いた「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出题します。 ○「知識・技能」、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に分けて出题します。 ○テスト範囲は、テストの約1～2週間前に連絡します。

3 年間指導計画（その①）

4月	【地理的分野】 第1部世界と日本の地域構成 第1章世界の姿 ◎知識・技能 世界の六つの州と主な国の位置と名称や、緯度と経度のしくみを理解したり、地図帳のさくいんや統計資料を活用したりしている。 ◎思考・判断・表現 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。 ◎主体的に学習に取り組む態度 地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について主体的に追究しようとしている。 第2章日本の姿 ◎知識・技能 世界の中での日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、日本の都道府県について理解し、世界の中での日本の位置を示したり、日本と各地との時差を計算し時刻を求めたりすることができる。 ◎思考・判断・表現 世界の中での日本の位置や広がりや、日本と世界各国の時差、日本の領土・領域について、多面的・多角的に考察している。 ◎主体的に学習に取り組む態度 世界の中での日本の位置や広がりについて関心をもち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究、解決しようとしている。
5月	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境 ◎知識・技能 世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連づけて理解している。 ◎思考・判断・表現 世界各地の人々の多様な生活と環境について、自然条件や社会的条件と関連づけ、写真や地図、主題図などを活用して多面的・多角的に考察している ◎主体的に学習に取り組む態度 世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心をもち、主体的に追究しようとしている。

第1節 アジア州

◎知識・技能

多様な自然環境や文化、産業がみられるアジア州について、地域ごとにその特色を理解し、地域間の違いからアジア州全体の地域的特色を理解している。

◎思考・判断・表現

アジア州の国々が急激な経済発展をしている理由を、人口増加や他地域との結び付きなどに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

急激な人口増加と経済発展が、アジア州に暮らす人々に与える影響や、それによって生じる課題とその解決を、主体的に追究しようとしている。

6月 第2節 ヨーロッパ州

◎知識・技能

空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目してヨーロッパ州の地域的特色について自然環境、文化、産業の特色を大観し、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解している。

◎思考・判断・表現

空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、EU統合の背景と課題、人々の生活に与える影響などについて、ヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

他地域との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及びEU統合や文化の多様性に関わる課題を、よりよい社会の実現を視野にいれて主体的に追究しようとしている。

第3節 アフリカ州

◎知識・技能

アフリカ州の人々の生活や産業の特色を理解し、アフリカ諸国とヨーロッパ諸国との文化や経済的な関係を、資料を用いながら歴史的背景を踏まえて理解している。

◎思考・判断・表現

輸出品が特定の農産物や鉱産資源に偏るようになった原因を追究し、その問題点を多面的・多角的に考察し表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

ヨーロッパ諸国との関係やモノカルチャー経済に着目しながら、アフリカ州の地域的特色への関心を高め、課題の解決を主体的に追究しようとしている。

7月 第4節 北アメリカ州

◎知識・技能

世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。

◎思考・判断・表現

北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活の様子を基に、多面的・多角的に考察している。

◎主体的に学習に取り組む態度

世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。

8月 第5節 南アメリカ州

9月 ◎知識・技能

多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長について理解するとともに、発展の一方で経済格差や環境破壊などの問題が生じていることを、本文や資料から調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

ブラジルで経済成長が続いている要因と熱帯林の減少の背景を関連付けて考察し、その解決策を多面的・多角的に考察している。

◎主体的に学習に取り組む態度

農地や鉱山の開発に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と開発に伴う環境問題について主体的に追究しようとしている。

第6節 オセアニア州

◎知識・技能

オセアニア州の自然環境の特色と植民地支配されていた歴史を理解し、自然環境と結び付く産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解している。

◎思考・判断・表現

オセアニア州の国々が、ヨーロッパの国と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察している。

◎主体的に学習に取り組む態度

オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究しようとしている。

【歴史的分野】

第1部 歴史のとらえ方と調べ方

第1章 歴史のとらえ方と調べ方

第1節 歴史の流れと時代区分

◎知識・技能

年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。
資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。

◎思考・判断・表現

時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

歴史の流れと時代区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

10月 第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた

◎知識・技能

自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的なことがらとの関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。

◎思考・判断・表現

比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心をもち、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり

第2章 古代 古代国家の成立と東アジア

第1節 人類の登場から文明の発生へ

◎知識・技能

古代文明の特色を、巨大な遺跡と文字や暦の発達に着目して読み取るとともに、宗教が生まれてきた背景を古代文明の発達との関わりから理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

古代文明や宗教が起こった場所や環境に着目し、文明や宗教の特色を比較し、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

世界の古代文明や宗教のおこりについて、章の問いと関連づけながら「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

11月 第2節 東アジアの中の倭(日本)

◎知識・技能

日本列島における農耕の始まりと人々の生活の変化、ヤマト王権の勢力の拡大などをもとに、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

農耕の広まりや生産技術の発展に渡来人が果たした役割に着目し、人々の生活や社会に与えた影響を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

日本列島における国家形成について、章の問いと関連づけながら「日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

第3節 中国にならった国づくり

◎知識・技能

律令国家の確立に至るまでの過程をもとに、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

仏教の伝来とその影響などをもとに、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

東アジアとの接触や交流に伴う日本の政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

律令国家の形成や古代の文化と東アジアとのかかわりについて、章の問いと関連づけながら「なぜ、日本の古代国家は、中国にならって国づくりを行ったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

12月 第4節 展開する天皇・貴族の政治

◎知識・技能

摂関政治をもとに、平安時代は、藤原氏の皇室との姻戚関係や広大な荘園の所有を背景に政治の実権が天皇から貴族に移行していったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

仮名文字の成立などをもとに、文化の国風化が進んだことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

平安京への遷都や密教の興隆、国風文化の形成に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

律令国家の形成や古代の文化と東アジアとの関わりについて、章の問いと関連づけながら「平安時代に行われた政治は、どのような特色があったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

第3章 中世 武家政権の成長と東アジア

1月 第1節 武士の世の始まり

◎知識・技能

鎌倉幕府の成立により、主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がるとともに、武士の気風にあった力強い文化が発展したことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

②武士の政治への進出と政治の展開、貴族の政治との違いに着目して、武家政権の特徴を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

武家政権の成立とユーラシアの交流について、章の問いと関連づけながら「なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

第2節 武家政権の内と外

◎知識・技能

蒙古襲来が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などの知識をもとに、武家政治が東アジア世界と密接な関わりをもちながら展開していったことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

東アジアにおける交流に着目して、モンゴル帝国の拡大や衰退が国内の政治や社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

武家政治の展開と東アジアの動きについて、章の問いと関連づけながら「ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

2月 第3節 人々の結びつきが強まる社会

◎知識・技能

農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的な仕組みの成立、多様な文化の形成、応仁の乱後の社会の変動などをもとに、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

室町時代の農業や商工業の発達に着目して、民衆の成長が社会に与えた影響を、事象相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

民衆の成長と新たな文化の形成について、章の問いと関連づけながら「なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

3月 第4章 近世 武家政権の展開と世界の動き

第1節 大航海によって結び付く世界

◎知識・技能

ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などをもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。。

◎思考・判断・表現

交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

近世の日本について、よりよい社会の実現を視野に「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いを主体的に追究しようとしている。

第2節 戦乱から全国統一へ

◎知識・技能

信長・秀吉による統一事業とその当時の対外関係、戦国大名や豪商などの生活・文化の特色などの知識をもとに、中世社会の荘園制の崩壊と仏教勢力の衰退により、近世社会の基礎がつけられたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

◎思考・判断・表現

統一政権の諸政策の目的に着目して、中世社会から近世社会への変化が生み出され、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象相互を関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。

◎主体的に学習に取り組む態度

信長・秀吉による統一事業や桃山文化について、章の問いと関連づけながら「全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

令和7年度 浦西中学校 各教科シラバス

学 年	2年	教科名	社会科
教科担当			
教科書名	中学生の地理（帝国書院）・中学生の歴史（帝国書院）		
副 教 材	地理の学習2・歴史の学習2,3		

「シラバス」とは、各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法などを記した総合的な学習計画のことです。浦西中学校の「シラバス」は、生徒の皆さんが1年間、何を学び、どのように学習を進めていくかを示すことで、見通しを持って、計画的・主体的に授業に取り組めることをねらいとして作成しています。

また、各教科の評価の観点点が3観点としてシラバスに示してあります。

I「知識・技能」…各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

II「思考・判断・表現」…各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

III「主体的に学習に取り組む態度」…知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」が実生活とつながっていることを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

1 社会科の目標と評価について

教 科 の 目 標	〔地理的分野〕 (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。 (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。 (3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。 (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。
	〔歴史的分野〕 (1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。 (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。 (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもち、国際協調の精神を養う。 (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

評価の観点	1 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。 2 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 3 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。
評価の方法	1 授業中の態度や参加の様子（挙手・発言・話し合い・聞く態度） 2 ノート・ワーク・レポートなどの提出物の内容と提出状況 3 単元テスト、小テスト、作文、課題発表など

2 社会科の学習について

授業の進め方	(1)授業は、プリントやノート、ロイロノートを使い、様々な課題を提示し、解決する能力を養います。提出物は期限を守って提出できるようにしましょう。 (2)単なる暗記ではなく、地図や統計資料、写真等から何が読み取れるかを考えます。 (3)ICT機器を活用し、視覚的にわかるように授業を展開します。 (4)テレビや新聞、SNS等の社会で起きた問題（ニュース）を通して、時事問題への関心を高め社会的事象に対する見方や捉え方を育てます。 (5)探求型の学習を取り入れ、お互いの意見や考えを交流し、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。
単元小テスト	○教科書ならびに副教材を使用して学習した授業の内容および時事問題などを中心に出題します。 ○テストに際しては、教科書の説明で使用したプリントやデジタルコンテンツからも出題します。 ○統計資料や地図、写真などを用いた「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題します。 ○「知識・技能」、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に分けて出題します。 ○テスト範囲は、テストの約1～2週間前に連絡します。

3 年間指導計画

4月	【地理的分野】 第3部 日本のさまざまな地域 第1章 身近な地域の調査 ◎知識・技能 ・観察や野外調査, 文献調査を行う際の視点や方法, 地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ・地形図や主題図の読図, 目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。 ◎思考・判断・表現 地域調査において, 対象となる場所の特徴などに着目して, 適切な主題や調査, まとめとなるように, 調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し, 表現している。
5月	第2章 日本の地域的特色 ◎知識・技能 ・日本の地形や気候の特色, 海洋に囲まれた日本の国土の特色, 自然災害と防災への取組などを基に, 日本の自然環境に関する特色を理解している。 ・少子高齢化の課題, 国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に, 日本の人口に関する特色を理解している。 ◎思考・判断・表現 ・「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目について, それぞれの地域区分を, 地域の共通点や差異, 分布などに着目して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。
6月	・日本の地域的特色を, 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して, それらを関連付けて多面的・多角的に考察し, 表現している。
7月	第3章 日本の諸地域 ◎知識・技能 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について, その地域的特色や地域の課題を理解している。
8月	◎思考・判断・表現 ・日本の諸地域において, 地域の広がりや地域内の結び付き, 人々の対応などに着目して, 他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し, 表現すること。
9月	第4部 地域の在り方
10月	◎知識・技能 ・地域の実態や課題解決のための取組を理解している。 ・地域的な課題の解決に向けて考察, 構想したことを適切に説明, 議論しまとめる手法について理解している。 ◎思考・判断・表現 地域の在り方を, 地域の結び付きや地域の変容, 持続可能性などに着目し, そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。

11月	【歴史的分野】 第3節 武士による全国支配の完成 ◎知識・技能 ・江戸幕府の成立と大名統制、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。
12月	◎思考・判断・表現 ・統一政権の諸政策の目的に着目して、江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ、安定した社会が構築されたことを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 第1節 欧米諸国における「近代化」 ◎知識・技能 欧米諸国における市民革命や産業革命をもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへの進出したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ◎思考・判断・表現 工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、近代化の進展により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したかを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
1月	第2節 開国と幕府の終わり ◎知識・技能 欧米諸国のアジア進出による中国の動き、日本の開国と貿易の開始による政治的、経済的、社会的な影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ◎思考・判断・表現 工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 第3節 明治政府による「近代化」の始まり ◎知識・技能 富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ◎思考・判断・表現 明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響を考察したり、明治維新について、近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換のようすを考察したりするなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

2月	第4節 近代国家への歩み ◎知識・技能 自由民権運動, 大日本帝国憲法の制定をもとに, 立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに, 日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに, 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ◎思考・判断・表現 議会政治や政治の展開に着目して, 世界との関係や, 現代の政治とのつながりを考察するなど, 事象を相互に関連付けるなどして, 近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し, 表現している。 第5節 帝国主義と日本 ◎知識・技能 条約改正, 日清・日露戦争などをもとに, 日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに, 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ◎思考・判断・表現 交や戦争の展開に着目して, 世界との関係や現代の政治とのつながりを考察するなど, 事象を相互に関連付けるなどして, 近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し, 表現している。
3月	第6節 アジアの強国の光と影 ◎知識・技能 日本の産業革命とこの時期の国民生活の変化, 学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに, 日本で近代産業が発達し, 近代文化が形成されたことを理解しているとともに, 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ◎思考・判断・表現 近代化がもたらした文化への影響に着目して, 産業の発展が国民生活や文化に与えた影響を考察するなど, 事象を相互に関連付けるなどして, 近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し, 表現している。

令和7年度 浦西中学校 各教科シラバス

学 年	3年	教科名	社会科（歴史的分野・公民的分野）
教科担当			
教科書名	中学生の歴史（帝国書院） 中学生の公民（帝国書院）		
副 教 材	歴史の学習2・3 、公民の学習		

「シラバス」とは、各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法などを記した総合的な学習計画のことです。浦西中学校の「シラバス」は、生徒の皆さんが1年間、何を学び、どのように学習を進めていくかを示すことで、見通しを持って、計画的・主体的に授業に取り組めることをねらいとして作成しています。

また、各教科の評価の観点が3観点としてシラバスに示してあります。

I「知識・技能」…各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

II「思考・判断・表現」…各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

III「主体的に学習に取り組む態度」…知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」が実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

1 (社会) 科の目標と評価について

教 科 の 目 標	〔歴史的分野〕 (1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。 (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。 (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。 (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。 〔公民的分野〕 (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。 (2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。 (3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。 (4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。
-----------------------	--

観 点 の 評 価	1 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。 2 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 3 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。
方 法 の 評 価	1 授業中の態度や参加の様子（話し合い・聞く態度・授業の課題） 2 ノート・ワーク・レポートなどの提出物の内容 3 単元テスト、小テスト、作文、課題発表など

2 （ 社会 ） 科の学習について

進 め 方 の 授 業	(1)授業は、プリントやノート、ロイロノートを使い、様々な課題を提示し、解決する能力を養います。提出物は期限を守って提出できるようにしましょう。 (2)単なる暗記ではなく、地図や統計資料、写真等から何が読み取れるかを考えます。 (3)ICT機器を活用し、視覚的にわかるように授業を展開します。 (4)テレビや新聞、SNS等の社会で起きた問題（ニュース）を通して、時事問題への関心を高め社会的事象に対する見方や捉え方を育てます。 (5)探究型の学習をできるだけ取り入れ、お互いの意見や考えを交流させ、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。
単 元 テ ス ト	○教科書ならびに副教材を使用して学習した授業の内容および時事問題などを中心に出题します。 ○テストに際しては、教科書の説明で使ったプリントやデジタルコンテンツからも出题します。 ○統計資料や地図、写真などを用いた、「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出题します。 ○「知識・技能」、「思考力・判断力・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に分けて出题します。 ○テスト範囲は、テストの約1～2週間前に連絡します。

3 年間指導計画（その①）

4月	オリエンテーション	3年生での学習内容、評価の説明
	〔歴史的分野〕 ①単元名(教材名) 第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎世界の動きと日本の関係に着目して、第一次世界大戦による世界の変化や影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	
4月	①単元名(教材名) 第2節 高まるデモクラシーの意識 ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化をもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	
	①単元名(教材名) 第3節 戦争に向かう世論 ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦が始まるまでの日本の政治・外交の動きなどをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	
5月	①単元名(教材名) 第4節 第二次世界大戦の惨禍 ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎世界の動きと日本との関連に着目して、二度目の世界大戦が起こった理由やその戦争の影響を世界的な視野で考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	
	①単元名(教材名) 第1節 敗戦から立ち直る日本 ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎日本の民主化と再建の過程、冷戦などをもとに、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	
6月	①単元名(教材名) 第2節 世界の多極化と日本の成長 ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎政治の展開と国民生活の変化に着目して、国民生活への影響と国際平和の実現への努力について考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	
	①単元名(教材名) 第3節 これからの日本と世界 ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎冷戦の終結をもとに、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助などもふまえ、国際社会においてわが国の役割が大きくなってきたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	

3 年間指導計画（その②）

	【公民的分野】 7月 ①単元名(教材名) 1節 現代社会の特色 ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎現代日本の特色として少子高齢化, 情報化, グローバル化などが見られることについて理解している。
	7月 ①単元名(教材名) 2節 私たちの生活と文化 ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎文化の継承と創造の意義について考察するとともに、異文化理解が求められている理由を、さまざまな資料を活用しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。
	7月 ①単元名(教材名) 3節 現代社会をとらえる枠組み ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、きまりの重要性やそれを守ることの意義、個人の責任について理解している。
	8月 ①単元名(教材名) 1節 日本国憲法と私たち ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ①日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権および平和主義を基本的原則としていることについて理解している。
	9月 ①単元名(教材名) 2節 基本的人権の尊重 ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎基本的人権の保障について、個人の尊厳を基礎に、自由権、平等権、社会権などの権利が保障されていることを理解しているとともに、現実の社会にある差別や偏見について、さまざまな資料を調べ、まとめている。
	①単元名(教材名) 3節 法の支配を支えるしくみ ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎法の支配を実現し、権力の濫用を防ぐために、憲法保障としてどのようなしくみがつくられているのか、憲法保障のため国民はどのようなことができるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
	10月 ①単元名(教材名) 1節 民主政治と私たち ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎議会制民主主義の意義, 多数決の原理とその運用の在り方について理解している。
	①単元名(教材名) 2節 国の政治のしくみ ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎国会、内閣、裁判所の役割について、それぞれの機関のしくみと仕事の内容を理解するとともに、それぞれの機関の相互の関連性について、さまざまな資料から調べ、図表などにまとめている。
	11月 ①単元名(教材名) 3節 地方自治と私たち ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎若者の投票率が低いという問題点を、地方自治が「民主主義の学校」とよばれることや、政治参加することの意義などから多面的・多角的に考察し、表現している。

3 年間指導計画（その③）

12月	①単元名(教材名) 1節 経済のしくみと消費 ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎私たちの生活を豊かにするための消費者の役割と責任を理解しているとともに、国や地方公共団体は消費者の権利の尊重およびその自立の支援のために、消費者政策を推進する役割を担っていることを理解している。
12月	①単元名(教材名) 2節 企業と生産 ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎企業の役割や責任、職業の意義および雇用と労働条件の改善について、さまざまな資料を基に課題を見出し、「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
	①単元名(教材名) 3節 市場経済と金融のしくみ ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎市場経済のしくみや価格の働きについて理解している。
1月	①単元名(教材名) 4節 財政と私たち ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ○公共サービスの提供と税金に着目して、財政のしくみを理解しているとともに、社会資本の整備、公害の防止や環境の保全、社会保障の充実などを通して、私たちの生活が財政の働きにより支えられていることを理解し、さまざまな資料から日本の財政が抱える問題を読み取っている。
	①単元名(教材名) 5節 日本経済の課題とこれから ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎日本経済の発展のためにこれからの日本企業に求められることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
2月	①単元名(教材名) 1節 国際社会のしくみ ②主な評価の観点 ◎知識・技能 ③概ね満足な姿(B規準) ◎国際社会においては、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力および国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解し、領土(領海、領空を含む)や国家主権の意味、国際連合のしくみと役割、グローバル化が国際社会や政治に与える影響などについて、資料から適切に読み取っている。
	①単元名(教材名) 2節 地球的課題とその解決 ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎「協調」「持続可能性」などの見方・考え方を働かせて、地球規模の社会的課題の解決のために、日本と国際社会ができることについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
3月	①単元名(教材名) 3節 課題研究と私たち ②主な評価の観点 ◎思考・判断・表現 ③概ね満足な姿(B規準) ◎社会的な見方・考え方を働かせ、「持続可能な社会」を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述している。